

深川の木材問屋からの変遷

馬 田 勝 之
(三幸林産株式会社)
代 表 取 締 役



決断のタイミング

弊社は1950年（昭和25年）設立、来年で70年になります。祖父が深川木場で木材問屋を創業し、父は木場から新木場移転を果たし営業所などを拡大してきましたが、42歳の時に大病をしてからは事業を縮小し経営を続けてきました。その間、得意先の倒産・廃業など数々の困難もありましたが、長く続けさせていただいております。

私が、入社したのは1992年（平成4年）でした。ウェディング関連の仕事を2年していましたが、結婚を機に家業を継ぐ決心をしました。木材に関して全く知識もなく、販売の仕方も何ともわかりませんでした。社員は身内だけで細々と経営している木材問屋でした。営業に出て何とか仕事をもらえるようになって来たものの利益率は低くギリ貧状態。このままでは債務超過、廃業を余儀なくされるであろうと苦慮していました。赤字経営脱却のために、早出残業、日曜も仕事という日が多くありました。それでも給料分稼げているかどうかで、とにかく仕事を多くもらい繰り返し続けていくことで少しずつ改善していきました。そして、ようやく2002年（平成14年）に黒字決算となりました。しかし、その数字は愕然とする程微々たるもので、逆に気力と活力が抜けた瞬間でした。「同じことを繰り返しても同じ結果以上は生まれない」と思いました。

木材卸売業から木材加工業へ進出したのは、翌2003年（平成15年）35歳の時でした。加工のことは素人ですが、若さもあり徐々に覚えていけば、いずれ得意先から頼られる存在になると思い、中古機械を中心に買い揃えることにしました。すると今まで加工依頼をしていた会社が同時期に廃業することを知り、その職人が弊社に加わりました。お客様も引き継ぎ、新規事業として最高のスタートとなり、決断とタイミングが合致した瞬間でした。

社会の動きと新たな転機

2005年（平成17年）37歳で社長に就任後、父親が不慮なことから寝たきりになってしまい、経営者として未熟なまま難しい舵取りを強いられました。社員も増員し以前よりも活気のある会社になりつつありましたが、まだまだ財務状況に不安が多くありました。

以前の新木場の営業所は8社で共同用地を所有しておりました。作業や運搬に適した場所でしたが、1社が抜ける前に8社まとめて共同用地もすべて売却することで、新たに再出発することにしました。買い手探し、移転場所など紆余曲折ありましたが、土地売買契約を行うことが出来ました。2008年（平成20年）リーマンショックが世の中を揺るがす前の週の出来事でした。

無事に土地の売買を終え、新たな工場を辰巳地区に賃借し、買い替え資産を別途所有することで経営の安定を図ることが可能になりました。本業以外に目線に向ける良い機会を得ることが出来、会社経営を資産からも見るようになりました。

変化していく本業と機械化の流れ

移転は無事完了しましたが、経済は停滞。売上は伸び悩んでいました。その頃、新規に始めた木材乾燥事業が注目を集めました。木材を高温で乾燥させる機械が多い中、低温で乾燥させる機械を導入し、試行錯誤しながら木材乾燥について学んでいきました。

2012年（平成24年）、弊社独自の「オールライ」木材乾燥機を開発し販売を始めました。納入実績はまだ数社ですが、天然乾燥では狂いの少ない木材に仕上げることが難しかったものが、この木材乾燥機で可能となり、導入した会社では、山に切り捨てられていたコナラやクヌギをカウンターやフローリングにする技術開発に成功しています。木本来の強さを引き出す低温乾燥機は、木材の可能性を広げる乾燥機となり、今後も木製サッシ製造などに採用されることを期待しています。弊社ではその後もレーザー加工機、2018年（平成30年）にはCNC加工機を追加し、木製品の開発と販売に力を入れ、建築材以外のニーズに応えられる体制を強化しています。

ニーズの多様化とSNS

最近ではDIY人気から女性が木製品を作るワークショップが各地でみられるようになりました。主婦層に人気があるワークショップとなっており、今後集客目的として大手ショッピングセンターなどでも行うところが増えてくるようです。参加者のSNS投稿によりDIY女子が増え、上級レベルの製作物を希望する方が多くなってきています。昨年からは木材のキットを各地に納めさせていただいております。

弊社でも3年前に本社をリノベーションし、オリジナルブランド「Kiclus」（キクラス）を立ち上げました。単なる高級家具ではなく、お客様が必要としている家具のイメージを再現できる提案をさせていただいています。端材を利用し価格を抑え、加工機を駆使して木の素材感を活かしたものを提供しています。

木の可能性

環境問題から木材活用は国にとっても重要課題です。東京で木製サッシ、内装、家具など、積極的に木を使用しない限り、増え続ける森林資源が活性化されるほどにはなりません。今後も木の良さやサステイナブル素材として認識してもらえる普及活動にも貢献したいと思います。